

腹腔鏡下筋腫核出術における細切方法に関する臨床研究について

順天堂東京江東高齢者医療センター

婦人科

昨年5月、これまで使用されてきた米国製の電動モルセレータが販売停止となりました。この電動モルセレータは、日本では主に筋腫核手術において核出筋腫の回収に使用されており、効率的な筋腫回収を可能とする機器でした。

そのため、販売停止当初は、マスコミなどでも話題となり、手術適応の変更や、手術時間の延長などが懸念されましたが、当院におきましては、臍部Z切開法と用手回収法を組み合わせ、手術適応の大幅な変更なく、対応してまいりました。

現時点では、米国以外の会社からも電動モルセレータが発売されるようになり、当初の混乱は収束しつつあります。

しかしながら、ここで一旦、回収法について、その効率を検討しておくことは、大変重要な課題だと思われ、ひいては、その結果を患者さんに説明する必要もあると考えます。

そこで、当院婦人科といたしましては、現在は使用できなくなってしまった電動モルセレータ(J&J社製モルセレックス)、現在使用可能なドイツ製のモルセレータ(STORZ社製スーパーカット)、および、現在おもに使用している、臍部Z切開回収法の3法の回収効率の検討のため、過去の手術成績データの比較検討を行いたいと思います。

具体的には、2014年3月～5月までの3か月間に当院で腹腔鏡下筋腫核出術を行った患者さんの手術記録の参照を行います。基本的にデータの個人情報、保護され、この検討以外に使用しないことをお約束いたします。本研究にご自身の手術データが使用されることをご希望されない場合は、データの使用を控えさせていただきます。

この研究について、ご不明な点、ご質問などございましたら、当科医師までご連絡下さい。

2015.7.10